令和5年度 第3回 八尾市史跡保存活用審議会

日時：令和6年3月20日（水）10時～12時

場所：八尾市役所 701 会議室

【出席者】

(委員) 菱田哲郎：京都府立大学 文学部 教授 (会長)

長友朋子：立命館大学 文学部 教授

吉川真司：京都大学大学院 教授

箱崎和久：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 都城発掘調査部長

清野孝之：独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所 企画調整部長

中野真也：曙川東小学校区まちづくり協議会

(オブザーバー) 北川咲子：大阪府教育庁 文化財保護課 文化財企画グループ 技師

株式会社総合計画機構 後藤勇人、友國慎也

(事務局) 新堂魅力創造部長、西澤観光・文化財課課長、藤井係長、河村副主査

(傍聴) 0名

【欠席委員】 瀧浪貞子：京都女子大学 名誉教授 (副会長)、網 伸也：近畿大学 文芸学部 教授

【次第】

1 開会挨拶 (魅力創造部長)

2 議事内容

案件) 史跡由義寺跡の保存・活用について：整備基本設計の作成 ー全体案の検討ー

【議事録】

案件：整備基本設計の作成 ー全体案の検討ー

事務局より、前回の審議会の指摘を踏まえた基本設計に係る修正点等を説明した。

①基本設計全体の確認

○スロープの折り返しの形状および動線の修正を説明

ー委員の主な意見ー

- ・四阿へのアプローチや北西部に人が回遊できるように園路を付けることは可能か。
→園路は寺院境内の整備にはそぐわないと基本計画時に除外した部分で、北側に広場として活用できる広い空間を検討しました。
- ・外から、お寺があることがわかるようフェンスに瓦を付けることはできないか。
→基本計画時においても四阿の瓦葺は難しいとの指摘を文化庁から受けており、由義寺では未確認の築地塀と誤解を与えることになるため、フェンス全体は難しいと考えています。しかし、エントランス等で寺院を意識できる意匠としてできるかは検討していきたい。
- ・広場の名称をつけるなど、由義寺が親しまれるよう検討した方がよい。
- ・外来植物の植栽については、生態系の影響が指摘されており、検討が必要である。

②塔基壇復元図の確認

○河内国分寺の塔基壇を参考に復元した敷石の形状及び敷き方の修正を説明

一辺 57 cm の敷石で葛石の間に全体がきっちりと収まるよう復元できた。

出土した凝灰岩は、葛石側ではなく建物地覆石外縁で打ち欠いて使用したものとして復元した。

－委員の主な意見－

- ・敷石の敷き方は整合が取れており、復元案は問題ない。
- ・葛石と羽目石、東石の大きさや石材の関係を含めて拡大図で正確な復元案を作成しておくこと。実施設計までに整理が必要である。
- ・葛石の出の寸法をきちんと考えておかないと、葛石が安定せず羽目石からすぐに転落することになる。
- ・石材は、現代の工法で切り出すことになると思うが、きれいになりすぎて奈良時代の基壇にそぐわないことになる。石の切り方など古代の工法の雰囲気再現できるよう検討しておく必要がある。

③塔基壇のバリアフリー対応

○スロープの平面位置と立面

－委員の主な意見－

- ・前回の議論のとおり、スロープの折り返しを増やすことで張り出しが少なく、できる限りめだたなくなった。位置等はよい。
- ・手すりのついた強化ガラスは、光って目立つことになるので景観上も良くなく、管理も難しいため、不用ではないか。転落防止であれば、手すりを付ける柱の間隔の工夫は可能である。
(変更) 強化ガラスはなくし、手すりだけのものとする。

○塔基壇の安全対策：車いすの転倒防止と落下防止

前回議論をした上下式のポール等はなくし、基壇の復元を前提とした。

－委員の主な意見－

- ・平城宮や難波宮の復元された基壇からの落下事故等は聞いたことがない。他市の事例も確認しておくこと。
- ・車いすの落下防止で提案された葛石と敷石との段差 (5 cm) は、車いす以外の多くの見学者がつまづく危険性が高くなる。基壇の復元のとおり、フラットな仕上げにすべきである。
- ・葛石の間に設ける基壇上の排水についても、敷石に勾配 (1%程度) があれば、基壇内部に浸透させるなどの対応ができるので、開けない方がよい。実施設計時に、基壇の構造等を踏まえて、排水方法をよく考えておくこと。
- ・側柱礎石は、円柱座が立体的であるのに対し、地覆石はフラットなので、わかるように色を変えて示しておくこと。

○下層基壇の表示方法

- ・「○」でよいと思うが、直径 5 cm は大きすぎるので、素材イメージの 2.2 cm との間のサイズで検討してほしい。平面図は「L」になっているので整合を取る。
- ・基壇で説明する時に目で追えるかを石材と合わせて色もあわせて検討すること。ステンレスのままでもよくわかるかもしれない。
- ・取付け位置等は凝灰岩の上に穴を開けることになるので、施工方法は留意すること。

④その他確認事項

○遺構縁石表示

史跡指定地北東部で検出した瓦だまり遺構の位置を縁石で表示することとした。

－委員の主な意見－

- ・遺構の全容がわからないのは理解しているが、今後の由義寺を考えるうえで重要な地点である。縁石と説明板（追加）だけでは一般の人は理解できないと思う。
- ・縁石だけでは、草刈りの頻度が多くなり、むしろ埋没してしまう。また、草刈り時に縁石で刃を傷める可能性もある。遺構の性格が不明なので立体的な表示が難しいので、植栽をこの範囲だけ変えるというのも検討できないだろうか。
- ・遺構の調査写真を焼き付けて貼りつけるのが効果的であるが、費用も掛かる。縁石で位置を表示するのではなく、瓦だまりの範囲を示す方がよい。例えば、その上に瓦（実物ではなく）の破片を置いて瓦だまりを再現するというのは、現状わかっている遺構の姿を示すことができる。
- ・再発掘調査も検討される場所で、史跡公園全体が芝張りであれば、このゾーンの変化を付けるという意味でも砂利を厚めにしくというのはどうだろうか。除草の頻度を下げることでもできる。（変更）委員の指摘の通り、縁石表示ではなく、瓦だまりの範囲を表示する。またその上に瓦の破片を置き、瓦だまりの再現を検討する。なお、砂利敷きについては、周辺との差異が大きいことから、再発掘及び再整備も可能となるよう現状維持（雑草にならない植栽）を検討する。

○視点場について

視点場③については、現地調査の結果、北側倉庫が視界に入り、遺跡の広がりイメージしにくいため、由義寺・由義宮の遺跡の広がり、瓦だまりを見ることができる

視点場④を設けたことを説明。

○史跡内サイン及び史跡外サイン計画

－委員の主な意見－

- ・恩智駅から案内は東側の歩道のみになっているが、由義寺がある西側の案内も必要である。
 - ・外環状線北方から自動車のアクセスは、土地勘のあるものなら理解しやすいが、初めてアクロスプラザの東側を通る動線は難しいかもしれない。その途中にも案内が必要である。また直進した場合の側道からのアプローチの案内も必要かもしれない
 - ・サイン計画等については、整備基本計画がより具体化したものとして、概ね了承された。
- ・審議会会長より、整備基本設計に係る審議会としての意見はほぼ出たので、指摘を踏まえた修正については事務局で検討することとして、審議会を終了した。

[その他報告]

○令和6年度の基壇東側の発掘調査については、文化庁の史跡の現状変更の許可も下りたので、体制が整い次第、調査を実施することとし、委員には調査日程等を連絡し、現地指導を受けることとした。

観光・文化財課課長挨拶にて閉会